

防犯ボランティア フォーラム 2012 開催記録



日時	平成 24 年 10 月 20 日(土) 午後 1 時 00 分～午後 4 時 40 分
場所	国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室
主催	警察庁

目 次

- 矢上団地自治会連絡協議会 (長崎県) … 1
- 朝日大学「めぐる」 (岐阜県) … 7
- 久米地区青少年健全育成連絡会 (愛媛県) … 13
- 富雄地区子ども安全対策協議会 (奈良県) … 20
- 上越市役所 (新潟県) … 26
- 東初石1丁目自治会自主防犯パトロール隊 (千葉県) … 31
- 標津町防犯ボランティア組織レッドシャドー (北海道) … 38



矢上団地自治会連絡協議会（長崎県）

みなさん、こんにちは。今、地域で学校に通う子どもたちと挨拶運動をやらせていただいています。それがお互い顔見知りになって、健全な街になるということです。元気よく挨拶をしましょう。それではさっそく矢上団地自治会連絡協議会の概要、活動内容について御説明したいと思います。



活動地域の紹介

まず、矢上の地理について御説明します。江戸から長崎まで、江戸時代から街道がつながっておりますが、江戸から行きますと、東海道、山陽道を下って関門海峡を渡り、小倉から長崎に至る道が長崎街道です。その長崎街道の終点・長崎の1つ手前が矢上の宿場です。矢上は長崎市の東部、橘湾を挟んで島原半島に面した地域に位置しており、橘湾を望む高台に造成されたのが矢上団地です。

矢上団地は戸建住宅の外、高層の公営住宅もあります。山や海に囲まれた自然豊かな町であり、児童公園も整備され、非常にコミュニティ活動がしやすい地域になっています。



矢上団地等の概要

昭和59年から分譲が開始され、35年くらい経過して「大人になってきたかな」という団地です。人口が7,237人、世帯数が2,581世帯ということで、長崎市全域から比べると僅かですが、地方では1つの小さな町とか村と同じような人口規模を有するコミュニティということがいえます。また、団地内には1学年4クラスの橘小学校、1学年5クラスの橘中学校があります。特徴的なことは、自治会への加入率が長崎市全域では68%ですが、矢上団地地区や、矢上団地を含む東長崎地区では加入率が90%となっており、この高い加入率をベースに私達は日常的に街づくり活動をしています。

連絡協議会は、平成5年4月に発足しました。先程、昭和59年に分譲が開始されたと申し上げました。その昭和59年当時から自治会は発足していますが、分譲が進むにつれて世帯数が増えていきました。そこで自治会を枝分かれさせ、運営がしやすい形で世帯数を一定規模に抑えながら展開してい

き、最終的に 14 自治会になりました。発足当時からいろいろな活動をしていましたが、個々の自治会が行事をするのではなく、「まとまってやることで総合力を発揮しよう」という方針でやっています。総会が非常に大変な行事ですが、規約を工夫して総代会ということをやっています。役員会は奇数月に開催し、総代会は年に 2 回。総代会に出席するのは各自治会の役員が出席します。役員だけでも 100 人を超えます。執行組織としては事務局、総務部、保健環境部、体育部、文化

連絡協議会の概要

創設年月日	平成5年4月1日
構成自治会数	14自治会
構成自治会員数	2,295世帯
議決機関	総代会(年2回開催) 役員会(奇数月開催)
執行組織	事務局、総務部、保健環境部、体育部、 生活安全部(ユートピア安全対策)、 文化部、婦人部の1局6部
関係団体	NPOたちばな




部、婦人部そして生活安全部の 1 局 6 部。あわせて、この自治会連絡協議会が出資をして立ち上げ、自分たちで運営をしている「NPO たちばな」があります。連絡協議会では広報誌を発行しており、34 号まで出しています。また、独自の事務所も持っており、防犯防災センターという名称で、矢上団地自治会連絡協議会の事務所と NPO たちばなの事務所があります。もとは汚水処理施設の建物だったところを、公共下水道が整備されていなくなった際に、コミュニティの場、自治会の施設として使用できるようにしたものです。

連絡協議会の活動経過ですが、平成 5 年に発足した後、平成 6 年 7 月に県警からモデルタウンとして指定を受けてユートピア矢上団地安全対策事業というものを開始しました。県警の事業は平成 8 年に落ち着き、現在は自治会連絡協議会の 1 事業として位置付けて続けております。平成 18 年 7 月に特定非営利活動法人たちばなを発足し、青色防犯パトロール活動の団体の認定を受けて活動しています。青色防犯パトロールは当初個人の自家用車 7 台でやっていたのですが、個人の負担が余りにも大きく、将来的な継続性を考えた時に非常に問題がありましたので、NPO 法人を発足させて、車両をリース、レンタルし、専用車両として使っていくということを始めました。以後、営々と活動して、平成 23 年 10 月にはお陰様で内閣総理大臣表彰を受けました。

活動内容

今日は防犯ボランティアフォーラムということですが、防犯というのは、私達にとっては街づくりの中の 1 つのツールです。福祉も街づくりができますし、子育ても街づくりができます。防犯も 1 つのツールとして取り組んでいます。それは何かということ。皆さんは覚えていらっしゃるかどうか分かりませんが、昭和 57 年 7 月 23 日に長崎大水害がありました。一晩の雨で約 300 人の方が土石流で亡くなるという悲惨な水害でしたが、この時、1 つの特徴的な事象がありました。土石流で流された集落には、もともと住んでいた人がいる地区と、新しく移り住んできた人がいる地区があり、各地区の生存率がどうだったのかというものがあります。もともと住んでいた方達は「危ないよね。そろそろ逃げようか。」というような意思疎通をしながら逃げることで、ほとんどの人が助かりました。しかし、新しく移り住んできた人達はそういう情報交換ができなくて、逃げ遅れて亡くなりました。

そういうことを受けて、私どもは、自治会の日常活動を行いながらお互いに顔が分かる仲間になっていこうということを念頭に置いてやっております。

活動の第 1 としては、安全・安心活動ということで NPO たちばなを主体として青色防犯パトロー

ルをさせていただいています。実施日数は年間 354 日、正月とお盆を除く毎日やっております。延べ参加人数は年間 647 人。そのほかにも強調月間に特別に参加をすることもございます。

青色防犯パトロールについては燃料費等が負担となってしまいますが、その対策として古紙・空き缶回収活動を実施しています。自主防犯活動に必要な車両のリース代、燃料費等の一部を賄うために、NPO たちばなが古紙・空き缶回収事業を実施しており、この年間の収入が 59 万円になっています。

2 番目は、年末年始と夏季の夜間パトロールです。最近、メタボ対策やアンチエイジングということで、よく僕らみたいな中高年が街を歩き回っています。こういった散歩も、ただ歩くのではなく意識して声を掛け合い、挨拶しながら歩き回れば、安全・安心活動になっていくということで、今からどんどん広げていきたいなと思っていますところでは。

3 番目は、環境美化活動です。団地内一斉清掃を年 4 回実施しております。延べ 4,754 人の参加で、お互いに一緒に街をきれいにしようということもコミュニティ作りの一環です。このほかにも街路樹の剪定作業を年に 2 回やったり、草取りをししたりと、私達が自ら自分たちの街をきれいにするためにやっています。



4 番目は、私達の主催で、団地内の橘小学校の児童を対象に自転車教室を実施しています。

5 番目、消火・避難及び救命救急訓練も年に 1 回、地域を決めてやっております。約 20 年くらいやっています。



そのほかの活動としては、まちづくり講演会、ウォーキング大会の実施、1,200 人くらいの参加を得て運動会をやっています。

夏祭りは2,300人くらい参加します。その外、クリスマスイルミネーションを灯したり、コンサートをやったり、婦人講座をやるなど、盛りだくさんの事業を展開しています。



以上、年間の活動としては、約30事業、青色パトロール活動日数でいえば354日やっています。これを一部の役員だけでやるということはありません。それぞれの部門のメンバーが集まって、それぞれの責任で実施をしていくというやり方をしています。生活安全部では自転車教室、夜間パトロール、消火・救命救急訓練、NPOたちばなと一緒に青色防犯パトロール活動をやっています。

矢上団地内での刑法犯罪発生件数は、平成18年度は年間45件くらいでしたが、年々落ち着き、今は3分の1程度という状況です。本当はゼロにしたいと思ってやっているのですが、なかなかゼロにならないのが実態です。

矢上団地内刑法犯罪発生件数

	非侵入窃盗	乗物盗	侵入盗	器物損壊	住居侵入	県条例違反	強制わいせつ	小計
平成21年	3	5	0	6	1	0	0	15
平成22年	4	3	2	3	1	2	2	17
平成23年	4	3	3	3	0	2	2	17

活動経費

次に、連絡協議会の収支を簡単に御説明します。負担金として14自治体の各世帯から850円をいただき、約250万円の予算でこの連絡協議会の事業をやっています。支出としては、専門部の30事業をやるために、専門部費として約105万円を支出しています。

一方、NPOたちばなの収支ですが、立ち上げる際に連絡協議会からNPOに200万円を出資して基本財産とし、また年間各自治会から1万円ずつ計14万円を会費として出していただいています。これに加えて、防犯パトロール事業費ということで補助金をいただいたり、助成をいただいたりしており、また、環境美化事業費は廃品を売ったりして収入としています。そこから支出として防犯パトロール事業費、環境美化事業費、租税公課税金を払ったりしていますが、収支としてはマイナスです。NPO法人で地域のコミュニティがやっている事業ですから、たくさんの収益を上げるのは難しいのですが、とはいいながら痛いのは、租税公課。税法上、NPO法人でも法人税を納めなければいけません。その税金を納めるために稼がなくてはならないというような話にもなってきて、非常に矛盾を感じているのですが、今後、制度が変わってくればいいなと思っているところです。

連絡協議会の収支 1

平成23年度連絡協議会収支

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
負担金	1,962,650	事務運営費	743,518
雑収入	260,983	専門部費	1,052,233
		助成金等	91,299
		広報誌発行費	180,630
		運営資金積立金	180,000
小計	2,223,633	小計	2,247,680
前年度繰越金	323,058	次年度繰越金	299,011
合計	2,546,691	合計	2,546,691

連絡協議会の収支 2

平成23年度NPOたちばな収支

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
会費	140,000	管理費	148,155
防犯P事業費	477,950	防犯P事業費	611,928
環境美化事業費	590,130	環境美化事業費	491,223
その他事業費	105,528	その他事業費	13,360
雑収入	30,953	租税公課	93,600
小計	1,344,561	小計	1,358,266
前年度繰越金	1,294,658	次年度繰越金	1,280,953
合計	2,639,219	合計	2,639,216

今後の課題

連絡協議会の今後の課題ですが、後継者の育成、高齢化対策、参加意識の拡大となります。どちらでも同じようなことを感じているのではないかなと思います。後継者の育成としては、積極的な世代交代を進めるとともに、後継者の育成が必要だと思っています。往々にして自治会長がなかなか辞められないという状況がありますが、70代、80代になっても自治会長をやっている、それではやっぱり地域は元気にならないのではないかな、というような思いもあります。頭も体もしっかりしていて動ける90代という方がいらっしゃるのは素晴らしいことなのですが、40代、50代という若い人にバトンタッチしていけるような、うまい移り変わりが必要ではないかと思っています。

高齢化対策としては、団地ですから、どうしても皆同じように年をとっていくという問題があります。公営住宅には若い人が入ってくるので平均年齢が極端には上がらずに済んでいます。増えていくばかりの高齢者に対するサポート事業が必要になってくるということが、私達の今後の街づくりの課題になっております。それから戸建住宅住民と共同住宅住民の意識が多少違います。このあたりを一緒にものにできないかなと悩んでいるところです。

最後になります。連絡協議会の活動方針として「きずな、連帯、連携」を掲げておりますが、基本的に各会員同士の絆、自治会同士の連帯、各行政機関との連携を矢上団地自治会連絡協議会がつなぎ、紡ぎ出しながら今までやってきています。これを今後とも続けていくことによって、「明るく清潔で安全な住みよい街」にしていきたいと思っています。そのための防犯活動、安全・安心活動が大きなツールとしてありますので、積極的に頑張っています。

ありがとうございました。

連絡協議会の今後の課題

- 後継者の育成
全般的に役員等の高齢化が進行しており、組織の活力を維持するためには、**積極的な世代交代と後継者の育成**が必要
- 高齢化対策
高齢化対策として、行政機関と連携しながら訪問活動や買い物等の**生活サポート事業を展開**する必要がある
- 参加意識の拡大
活動の主体であった戸建て住宅住民の高齢化が生じており、**共同住宅住民の積極的な参加**をさらに促す必要がある

活動方針

矢上団地内を、「明るく・清潔で安全な・住みよい街」にするために、各自治会及び会員がお互いに連携し、親睦を深めながら、体育・文化的行事の活性化、安全対策の推進及び福祉活動を強力に展開し、ふれあいセンターの積極的な活用を計ります。



質疑応答

●質問 今回発表の中で活動資金のお話がありました。矢上団地さんでは大変工夫しておられると感じたのが廃品回収です。ただ、廃品回収というと新聞を各家庭で出せばトイレトペーパーをいただけたりするのですが、住民の方々の理解を得る上では苦労があったと思うのですが、いかがですか。住民の方々にどのように説明して協力を得たのですか。

○回答 各家庭によって考え方が違います。だから、「古新聞古雑誌等を自治会連絡協議会に全部出してください」という取り組みはしていません。「好きに出してください」ということになっています。民間の古紙回収業者に出してトイレトペーパーに替えたいという家庭には、そのようにしていただいています。自治会の活動に協力してくださる方については、先程お話しした事務所の1階にリサイクルセンターを設けておりますので、そこに山ほど新聞紙、雑誌、古着、アルミ缶を持ってきていただいています。そのほか、NPOはごみステーションを回っています。以前は、ごみステーションに出されている廃品については行政のものだという位置付けがありましたが、条例等が改正されて、行政が認めた団体がごみステーションから廃品を回収して活動費に替えることが認められるようになりました。そこで、私どもが設けているリサイクルセンターに持ってこられない方はごみステーションに出して下さっても結構ですよ、というかたちになっています。ただ、古紙回収業者は各戸に車で回ってきて、置いてある新聞紙をトイレトペーパーに替えるということを行いますが、私どもの自治会連絡協議会では各戸を回って集めるということはありません。以上です。

●司会 矢上団地さんでは青パト活動を展開していらっしゃいます。非常に効果的なパトロール活動が展開できているというふうに聞きました。

さて、本日お越しの日本財団さんでは青パトの助成事業をしておられます。日本財団さん、よろしくをお願いします。

○日本財団 皆さん、日本財団の高木と申します。はじめまして。このような機会に招いていただきまして、大変光栄に思っております。矢上団地自治会連絡協議会様のように、絆、連帯、連携というような地域の街づくりのきっかけの一部として活動していらっしゃる団体様に、私ども日本財団では、2007年度から車の助成をさせていただいております。私どもでは、白と黒のツートンカラーで新車の軽自動車に日本財団のマークをつけていただきまして、総合計の80%以内、130万円を上限に車両の購入のお手伝いをさせていただいております。今年もインターネットで情報公開をしております。グーグル等で「チーム青パト」というブログを検索していただきますと、この助成に関する詳細を載せております。是非こちらを見ていただきまして、御申請をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。お時間ありがとうございました。

朝日大学「めぐる」(岐阜県)

皆さん、こんにちは。私達は岐阜県瑞穂市から参りました。朝日大学防犯ボランティア団体「めぐる」の加田と申します。私は井上と申します。それでは発表を始めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



団体の結成経緯



まず、「めぐる」が設立された経緯を説明します。以前から朝日大学法学部では、刑事法のゼミを中心に、防犯マップ作りや徒歩による防犯パトロールなどの防犯活動が展開されていました。このような中、2010年、警察庁の「若い世代の参加促進を図る防犯ボランティア支援事業」の実施によって、私達は岐阜県内の大学生防犯ボランティア団体として指定を受けることになりました。

それに伴い、団体名を「めぐる」と名付けました。なぜ団体名を「めぐる」と名付けたかといいますと、「安全、

安心して暮らせる街にしたい」という、「熱い思いを巡らせ、地域を駆け巡り、やがてその思いと活動が、世代を超えて後世に巡ってほしい」というメンバー全員の願いが込められているからです。

これが、私達が作ったユニフォームです。ユニフォームの背中には、鷲のイラストが描かれています。この理由は、鷲は厳しい監視をすることができるという意味からデザインしました。私達の活動を図にするとこのようになります。私達は警察庁から指定を受けたことにより、これまで大学生だけでしか行われなかった活動の幅が更に広がり、行政や地域と連携を図りながらの活動が可能になりました。活動範囲が広がったことにより、私達は様々な活動が展開できるようになりました。



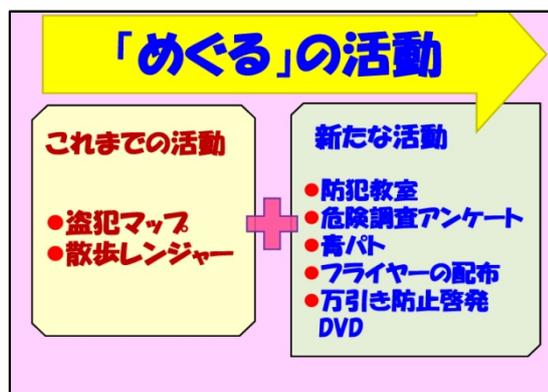
新たにできるようになった活動を図にしたものがこちらになります。では、簡単に、こ

これらの活動を1つずつ紹介していきます。



活動内容

私達の活動は、まとめると6つに分けられます。1つ目は地域の見回りです。この活動は2種類から構成されています。まず、私達学生の徒歩によるパトロール、通称「散歩レンジャー」です。主に危険箇所点検と環境美化を目的とし、大学周辺を私達の足で歩きます。路上のごみを拾いながら、電柱に許可なく貼られたビラや、壁などへの落書き、不審者が出没しそうな周囲からの死角などがいないかを調査しています。これは、私達学生ならではの活動であり、このような小さな努力の積み重ねが大学周辺の地域をより安全にしています。防犯パトロールをしていると、地域の方々に声をかけられることもあり、その言葉が私達の活動の原動力になっています。このような地域の方々とのコミュニケーションで、防犯の輪が広がっていくことを改めて感じました。そして、もう1つの見回りが青色防犯パトロール、通称青パトです。週に1回、瑞穂市の職員と一緒に青パトに乗り、市内の小学校全7校の通学路を中心に市内全域をパトロールしています。この活動は、不審者による子どもの誘拐、振り込め詐欺等のアナウンスを流しながら走っており、下校途中の子ども達の安全を見守っています。



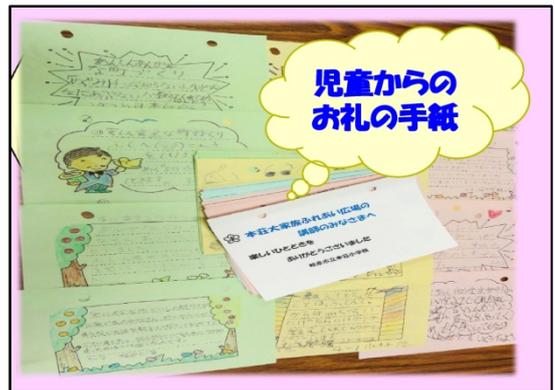
2つ目は防犯教室です。この活動は、園児や児童が犯罪に巻き込まれないために、様々な手法を凝らして防犯について学習指導を行うものです。内容としては、不審者に捕まらないための20メートルダッシュ訓練、騒音測定器を使用して不審者に捕まった場合に大声で助けを呼ぶ訓練で、体験型の防犯教室を行っています。また、子ども達に考えてもらうものとして、不審者とはどういう人かについて考えるクイズ、不審者に出遭った場合を想定した紙芝居などです。これまでに複数回開催してきましたが、最初からうまくいったわけではなく、防犯教室を行うたびに出てくる反省点や問題点を改善し開催しています。



例えば、不審者クイズでは、1度目は実際に「めぐる」のメンバーの5名が赤いアフロをかぶったり、サングラスをかけたりして変装していましたが、あまりに奇怪な格好だったり、動いてしまうため、次の人を紹介していても児童が前に紹介した人を気にしてしまい、考えてもらうということができませんでした。そのため、実際の人物を使うのではなく、イラストに置き換えることで児童達に話

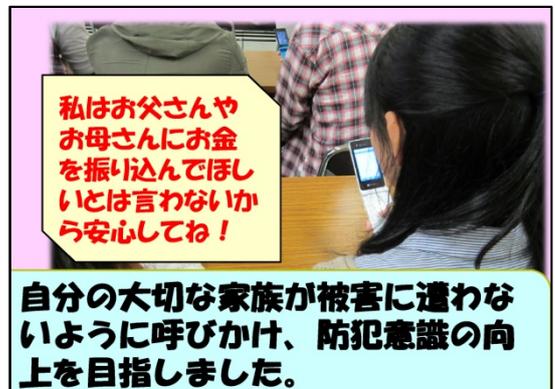
を切り替えやすくしてもらえるようにしました。また紙芝居では、登場人物を親しみを込めて動物にしていますが、あまり現実味を帯びていないためか、児童達の共感を得ることができませんでした。そのため、よりリアルに感じてもらうために、小学生を題材にしました。

このように、より児童がわかりやすく、飽きないものとなるように努力しています。活動に適したものを既製品で探すことは難しいので、紙芝居や説明に用いるパネルは私達が材料を買い、全て手作りしました。このほかにも、警察と連携した活動として、マクドナルド防犯教室を行ったことがあります。この活動はこれまでに2回行い、ドナルドと一緒にパワーポイントを使用して、子ども達に不審者への対応方法について教えました。コミカルな説明を交えることで、子ども達にいかに関心を持っておもしろく聞いてもらえるか、私達もこの防犯教室から学ぶことができ、良い機会でした。防犯教室を通じて児童に防犯意識を高めてもらい、自分の身を守ることの大切さについてわかってもらえるように心がけ、指導しています。防犯教室開催後、児童からお礼の手紙をいただきました。2年生の女の子からは「紙芝居やクイズで不審者がなぜ危険なのかがわかりました」と、また、5年生の男の子からは「20メートル不審者から逃げ切れば、もう不審者はついてこないことを教えてくれてありがとう。もし不審者に出遭った場合は、実践したいと思います」と、このように温かい言葉を受けて、一生懸命活動をしてよかったと本当に実感しました。



3つ目は防犯啓発活動です。この活動も2種類あります。

1つ目として、大学の新生とその御家族の防犯意識を高めるために、振り込め詐欺被害防止活動を行いました。振り込め詐欺の被害にあった方の大半は、振り込め詐欺を知っていた方です。振り込め詐欺被害を防止するためには、より一層防犯意識を向上させる対策が必要となります。そこで、私達はこの活動を「家族にメールを送ろう大作戦！！」と称して、大学の新生と一緒に、家族の振り込め詐欺被害を防止するために行いました。普段、面と向かっては言い辛いこともメールという何気ない日常生活のコミュニケーションを用いることで、「私はお父さんやお母さんにお金を振り込んでほしいとは言わないから安心してね！」という文章で、家族に呼びかけました。自分の大切な家族が被害に遭わないよう自らが呼び掛け、また、各々の防犯意識を向上させることができました。



2つ目に、市民の防犯意識を高めるために、地域のショッピングモールでのチラシ配布、お店や駅、銀行などでの手作りのチラシ入りティッシュを配布する活動を行っています。自治体や警察署だけでなく、地元の防犯ボランティア、そして高校生らで構成されたMSリーダーズなどとも連携を図るなど、防犯活動だけでなく、幅広い年齢層の方々との交流も大切にしています。また、実際に配布したものがこちらになります。このデザインは、私達学生が画像処理ソフトなどで作ったものです。制作にあたっては、いかに分かりやすく伝えるかという点にこだわり、みんなで意見を出し合いながら、ビジュアルやキャッチコピーを考えています。



最近では、私達で新たな広報活動の企画を立てて行いました。東海地方に本店を置く十六銀行でこのようなものを配布し、振り込み詐欺の注意を呼びかけました。そのほかにも自転車の防犯登録と二重ロックの点検なども行っています。さらに、岐阜県警察本部生活安全総務課、自動車盗難等防止協会、岐阜県防犯協会とともに、ホームセンターでの車上ねらいや空き巣の注意を呼び掛ける広報活動を行いました。こちらが活動の際に配布したものです。ここでは、岐阜放送、中日新聞、読売新聞、毎日新聞といった多くのメディアに取り上げられました。このように周りの団体との連携や、学生の独自性を持ち合わせることで地元のメディアなどにも注目され、地域の方々からの認知度も広がりました。



4つ目は、万引き防止啓発DVDの作成です。万引きの実情を全国に伝えるために、岐阜県警察本部と岐阜放送で協力して撮影しました。これは地元のテレビ番組で放送され、現在は、全国の警察を通じてレンタルも可能となっており、反響が大変大きいと伺っています。それがこちらになります。



5つ目は危険体験アンケート調査です。このアンケートは「めぐる」の企画から始まったもので、それを進める上で警察の人達と相談し、市の教育委員会を通じて小学校に依頼したものです。このアンケートは、瑞穂市内にある小学校全7校の1年生から6年生を対象に行いました。集計したアンケートの総数は3,152枚です。アンケートの

実施の目的は、児童が受けた犯罪や危険だと思ったことなど、子ども目線の街の実情を知るほかに、アンケートを通じて児童の防犯意識を高めてもらいたいと思い、行いました。

質問は16項目で構成されており、アンケート形式で答える形になっています。質問からは、危険な体験をしたことがあるか否か、あるとすれば、いつ、どこで、誰が、どのような人に、何をされたかなど、具体的に把握できる形式になっています。他にも、「児童が防犯ブザーなどの防犯グッズを持っているか」、「通学路には子ども110番の家が存在していることを知っているか」といった内容の質問で、児童がどの程度防犯意識を持っているのかを知ることができます。集計したデータを読み取りやすくグラフにしていき、そこからわかる事実や問題を議論し、お互いの意見を交換していきました。そしてカテゴリーごとに分けて解決策を考え、また、アンケート結果から浮上した問題点を踏まえ、防犯教室の内容を充実、改善などしていくほか、行政や民間企業などとの連携による新たな企画を展開していきたいと考えています。

6つ目は防災教室です。これは現時点では企画準備段階ですが、これまでの防犯活動に加え、新たに防災活動を展開するものです。昨年の東日本大震災を鑑み、市民の方々が防災について強く関心を持つようになりました。そのような中、私達は一人暮らしの学生に焦点を当て、個人から始められる防災について私達がレクチャーをできたらと思い、目標を立て、これを企画しました。主な内容としては、震災によって起こりうる事故を未然に防ぐためにはどのような対処が必要になるかということをテーマに取り上げ、クイズや寸劇などでわかりやすく説明できるものを取り入れながら、今日から実践でき、かつ受講していただく学生が楽しくわかりやすく学べる教室にしたいと考えております。

防災教室

一人暮らしの学生を焦点に当て、個人から始められる防災を企画

内容は、震災によって起こりうる事故を、未然に防ぐための対処法をテーマにし、クイズや寸劇などを取り入れながら、今日から実践でき楽しくわかり易く学べる教室

今後の抱負

最後に、今後の抱負となりますが、現在「めぐる」は大学所在地区を主として活動を行っています。

今後の抱負

◆活動地域の拡大

岐阜県全体が安全・安心な社会に!!

◆対象者を幅広い世代に

子供から高齢者まで

もちろん、今後もベースとなる活動地域は変わりませんが、今後はさらに他の地域にも活動範囲を広げ、まずは岐阜県全体が安全で安心な社会になることを目指します。そのためには、他のボランティア団体や他大学との連携強化を図っていきたいと考えています。また、活動の対象者も、これまでは児童、生徒が中心でしたが、今後は高齢者も対象に含め幅広い世代に対して、普及、啓発していきたいと思っています。

今後、瑞穂市では新たに民間交番構想が議論されています。「めぐる」のメンバーや朝日大学の学生が、各種行政機関や他の団体と意見を交換し、これまでの経験を活かしながら防犯について地域の人々に指導していく、あるいは、防災に関する勉強会を開催していきたいと思っています。そして、民間交番が創設された折には、微力ではありますが、地

域の活性化に携わっていきたいと考えています。これからも、今まで以上に協力、応援して下さる方々に対し、感謝する気持ちを忘れずに活動していきたいと思います。これで私達の発表を終わります。御清聴ありがとうございました。

質疑応答

●質問 皆さんの活躍、大変感動しております。そこで、なぜボランティアを始めたのか。それから家族に対してボランティアメールを送ろうと働きかけても、なかなか送ってくれない学生もいます。そのような大学生の温度差をどのように解消したのか。また、警察と連携を図っているのか。具体的に教えていただければと思います。

○回答 まず、なぜ始めたのかについてです。これは本当に人それぞれに理由がありまして、私は岐阜県の大学に進学したことにより、岐阜に下宿をすることになりました。そのため、自分の住む街をもっとより良くしたい、安全安心に暮らせる街にしたいと思い活動を始めました。

○回答 私は高校生の時から生徒会やボランティアなどの活動を行っていました。そのため、大学に入ってから何か大学と関係しながら、そして大学周辺の地域もよく知りたいと思い、ボランティアを始めました。

○回答 次に温度差についてです。もちろん温度差はあるかと思えます。全員がメールを送ってくれたのかチェックしてはませんが、朝日大学の学生は積極的にこのような活動に協力してくれますので、メールは送信してくれていると思えます。また、警察との連携についてですが、週に1度～2度という頻度で岐阜県警の方が活動に参加してくださっています。以上になります。

●質問 学業が本業である大学生の皆様方が、こういう活動をなさるのはいつでしょうか。例えば、週のうちに何日とか、どういう時間帯を利用しているのかということです。また、皆さんは出身地が違いますが、卒業した後も地域に戻ってボランティア活動を広めていきたいということ伺いました。そこで逆に、新入生の方々にはこのボランティア活動をどのように伝えていくのか、その手法があったら教えていただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

○回答 週に2度、毎週火曜日と金曜日に16時半から2～3時間ほど時間を決めて行っております。しかし、それ以外にも、個人でこの日は集まろうとメンバー同士で決めて行うこともあります。新入生の勧誘ですが、ほぼ毎年ポスターを自分たちで制作して校内に貼っています。また、大学で活動報告会という機会を与えていただいていますので、その場でプレゼンテーションを行いPRしています。

久米地区青少年健全育成連絡会（愛媛県）

こんにちは、久米公民館館長の安永と申します。公民館の目的を3つ挙げて普段活動しております。

- ①安全で安心して暮らせるまちづくり。
- ②自分たちの住んでいるところをよく知ってもらい、誇りと愛着を持ってもらう。
- ③一人でも多くのいろいろな人と出会えるきっかけ作りをしよう。



さて、私が考えるに、防犯には直接防犯と間接防犯があらうかと思います。今日はこの中でも、間接防犯を中心に運営審議委員長の仙波から発表させていただきます。よろしくお願いいたします。

活動地域の紹介

仙波です。よろしくお願いいたします。地区の概要を説明させていただきます。久米地区は人口3万弱、世帯数12,000、町は11町ありますので11分館から成ります。地区内には、中学校1校、小学校4校、高校が1校あります。小学校は、もともと久米小学校1校でしたから、昔は久米公民館と小中1校で非常に統一された地域だったのですが、児童数の増加に合わせて3つの小学校が増設され、現在は4校になっています。

私どもの団体は昭和61年に設立し、地域最大の子どもにかかわる団体です。公民館の下に事務局があり活動しております。もちろん皆さんのように監視性を高める防犯活動もしております。13年度から「見まもり隊」を作りましたが、きっかけは広島の流れ去り事件で、その時私もPTA連合会の会長をしていましたので、全小学校に「見まもり隊」を作ろうと発信して、久米地区でも4つの小学校で「見まもり隊」ができました。ただ、活動を続ける中でやはり地域に1つの「見まもり隊」があって、それぞれ分室があった方がいいと、21年に「久米見まもり隊」に統合しました。

4つの「見まもり隊」がこのように活動をしながら、公民館を中心に学連協や青少年健全育成連絡会と協働して、地区全体を「久米見まもり隊」が見守るという組織統合をさせていただきました。これは事業の効率化と有効性を担保するためのものです。

公民館の役割

- 安全で安心して暮らせるまちづくり
- 自分の住んでいる所をよく知ってもらって誇りと愛着を持ってもらう
- 人と人が出会う事が出来るキッカケづくり

防犯には2つある。対処療法と根本治療

② 団体概要

昭和61年設立 地域最大の組織

公民館運営審議委員会
スポレク部・女性活動部・青少年教育部
高齢クラブ・子ども会
文化保存協会・はいじの会・里山づくり委員会

公民館 事務局

久米地区青少年健全育成連絡会

町内会長会・広報委員会・社会福祉協議会
商工業会・土地改良区・自主防災連合会
交通安全協会・防犯協会
体育協会・婦団連・芸能連
教育会・愛媛大学国際交流会館
幼高大部会・ボーイスカウト

もちろん、なぜこれが防犯にと思われるでしょうが、この小学生を里山に呼び込んだ同じ場所で、実は里山キャンプをやっております。これがその時の映像です。受付は小学校の先生がします。地区内の4小学校の4年生が約200名集まって、一晩何もなくて野外キャンプ体験をします。

ただ、地域の人が小学生と関わるのではなく、集まった小学生をリードしていくのは中学生です。4年生の時にこの里山キャンプに参加した中学生が4年生を指導するという仕掛けにしております。リーダーとして中学生が小学生を指導しながらテントを作ります。

キャンプファイヤーは、大学生の仕事にしています。地域の廃材を集めますので、一晩中キャンプファイヤーをしています。思い出を胸に、毎年200名前後の小学校4年生が初めて地域デビューをしながら、地域のそれぞれの年代層が関わる。これをこの里山で始めました。



[4年生と中学生ボランティアの関わり合い]



[中学生の指導で完成]

間接防犯について～安全安心マップづくり

2番目は皆さんのところでも行っていらっしゃる子どもの安全安心マップづくりです。

(ビデオ上映)

—— 松山市の福音小学校です。こちらでは小中学生とそれから地域の人たちが一緒になってこうした地域の安全マップを作っているんですね。

—— なかなか見事な出来ですね。

館長 そうですね、ここは福音小学校は今年で3回目です。

—— 狙いとしてはどういうことなんですか。

館長 来年小学校1年生に入学してくる子どもたちのために、あなたの通学路はここですよ。ここが楽しいところです。ここはちょっとだけ危険ですよということを知らせてあげたいなということで作っております。

—— 自分たちの住んでいる町のこともよく分かりますよね。

館長 そうですね。

—— 通学路ごとの班に分かれていざ出発。今年はどんなマップができるでしょうか。



—— 緑のカードは何のカードなん。

小学生 危険な所用のカードです。オレンジ色のみかんカードは町のステキなところを発見して書きこみます。レモンカードは大人が気付いたことを記入します。

—— ここ、今チェックされていたのは何か。

保護者 あそこの細い道の所は、ここは車が通るので子どもたちはあちらの細いほう、店の裏を通るので、ぶつかったりする恐れが。

—— 国道11号のすぐそばで交通量も多く、見えない危険もいっぱいありそうです。枝松バイパスの高架道路の下には福音公園がありました。

小学生 福音公園は雨が降っても遊べるので、1年生にも遊んでもらいたいです。

—— その一方で。

小学生 不審者に遭ったことがあったので、なるべく新1年生に遭わないようにしてほしいです。

—— 中学生は地図係。カードの場所をそれぞれ地図に記録しました。学校に帰ってからカードを切抜き、地図を仕上げます。いろいろな報告をしあってみんな和気あいあい。地域の素敵なおところ、危険なおところを再発見し、みんなが仲良しになれた1日でした。

(ビデオ上映終了)

安全マップづくりは、17年から今まで5回行っていきます。毎年少しずつ手法を変えながら、町のいろいろな課題を発見し、良いところも伝えながらマップを作っています。

その中で、一番変わったのがこの平成20年度版。御覧のようにイラストマップにしています。これは筑波大学の渡研究室の学生さんに作っていただきました。新1年生に贈るマップなので、夢を贈りたいので、そういうマップにしてくれと言ったら、こういう具合になりました。

今ビデオでありました福音公園。マップの中で地域の課題として出てきましたので、高校生に投げかけました。高校生が考えた意図を小学生に伝えるビデオです。

(ビデオ上映)

高校生 福音小学校の皆さん、こんにちは。

私たちは福音公園をステキで楽しい公園にしようと考えています。

そこで公園にある柱に絵を描こうということになりました。

名付けて柱で遊ぼう、公園アート。

みんなの手形を使って絵を描きます。

素敵な絵ができるように皆さんよろしくお願いします。

3月19日、1時から福音小学校でやっているのです皆さん来てください。

よろしくお願いします。

一同 よろしくお願いします。

(ビデオ上映終了)

実はこの高校生の中の一人は福音小学校出身の高校生です。自分が中学生の時にこの福音公園ができて、何か不穏な公園ができたと思っていたらしいです。地域の呼びかけで、公園の改造をしようという動きがあるのなら私も参加するということで来ていただきました。でき上がったものがニュースになっておりますので、少し見ていただけたらと思います。

(ビデオ上映)

アナウンサー 子どもたちの手形を使ったアート作品が松山市の公園に完成し、参加した子どもたちは東日本大震災の被災地へ応援メッセージを書き添えました。公園には地元の小学校の児童や高校生などおよそ40人が参加し、児童の手形およそ600枚を並べた縦4メートル横3メートルのパネルを完成させました。これは人通りが少ない高架下の公園を人が集まる安全な場所にしようと企画されたもので、手形でタンポポや蝶をかたどり、カラフルなアート作品に仕上げました。

完成直前に東日本大震災が発生したため、子どもたちが被災者を勇気づけたいともう1枚パネルを追加し被災地へのメッセージを綴りました。

小学生 愛媛からも応援しています。

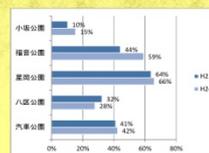
(ビデオ上映終了)

23年にこのタンポポをモチーフにしたアートパネルを作り、今年は「ありがとうの樹」を高校生たちに作っていただきました。飾るたびに、公園が明るくなった。コンクリートのむき出しの壁にこのような楽しい絵がかかるだけでも、公園の雰囲気が変わったという評判です。

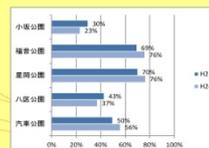
24年、活動の前と活動の後で保護者の意識がどう変わったのかを建築研究所の樋野さんに分析していただきました。一番私達が気にしていた安心率。福音小学校区には5つの公園があるのですが、その5つの公園中最大の15%安心率が高まりました。訪問率も福音公園が最大で6.5%高まっています。いろいろな人がこの公園をよりよいものにしていこうとしていることが少しずつ保護者の方にも伝わってきたと思っています。



21と24年の比較調査 分析：樋野公宏(建築研究所)



● 安心率
福音公園が
最大の15%増



● 訪問率
福音公園が
最大の6.5%増

間接防犯について～キャリア教育支援

3番目はキャリア教育支援。一応、学校支援ボランティア事業と名付けましたけれども、久米中学校の1年生に「仕事語り部講座」を18年より公民館が仕掛けて行っております。もちろん授業としてはキャリア教育でずっとあったものですが、かつては学校の先生が講師を集めてくる。2年生の職場体験も、学校の先生が探してきて校区外に発注する。「それはちょっとおかしい」と学校に言いますと、中学校の先生は地域を知らないのですと。それでは調べたり探したりするのは地域が行い、情報を渡すことにしました。現在では、仕事語り部講座のほとんどが地域の方、職場体験も地域の中の事業所でするようになりました。



やりだして2年目。恥ずかしい話ですが、それまで久米中学校では毎年20件程度の万引きが発生していたのです。ところが、この事業を始めてから2年目に最初にゼロになりました。次の年に1件だけ起きました。それが非常に残念で、先生がもう1回生徒を指導しました。それから3年、合計5年間で1件だけ。最近の3年間は万引きの発生がゼロになっています。このように中学生も地域を意識すると行動が変わりました。

変わった中学生が地域に出てきますと、町の人也非常に喜びます。そういう中で今年の2月に行ったのが健康ウォーク大会です。この公民館の健康ウォーク大会には、2年の生徒会役員の発案で2年生全員が参加することになりました。こういう形で地域の方と交わりながら、子どもたちが自主的な参加をするようになりました。

地域清掃。これは中学3年生が地域の清掃に生徒会として参加しています。小学校6年生は里山に植輪を作り、中学3年生になったら育った地域を清掃するという形で、地域の中で子どもたちが活躍する場を作ることによって犯罪が減ってきたと思います。

どうも御清聴ありがとうございました。これで発表を終わらせていただきます。



質疑応答

●質問 活動の中に防犯やキャリア教育という視点があって、小中学生が参加した活動も大変多く、生徒が地域に溶け込んでいる印象を強くしました。これらの活動を通じて、万引きが1件しかなかったという話がありましたが、生徒が変化し、成長していったことで何かお気づきの点がありますか。

○回答 中学生は、割合、自己肯定感や自己有用感が下がってくる時期です。その意味では地域で自分たちが活躍できる場があって、自分たちが必要とされているというメッセージが伝わると、子どもたちの自己有用感は確実に上がっていきます。久米地区では、他に本館の運動会や分館の運動会にも中学生が集団で参加しています。集団で体育祭の手伝いをするようになると、学校で認められなくても「地域に行ったらわしの天下や」という子が出てきます。そうなる学校の中でもきちっとフォローが出来て、自分に自信を持った子どもがたくさん出てきたと思います。

4年ぐらい前までは、中学生300人ほどが電車やバス、自転車に乗って、郊外や市内に職場体験に出かけていました。そうすると、先生も引率していかなければいけない。それは大変だろうと、「地元にもたくさん企業があるので、こちらでその企業を斡旋するから、是非地元で職場体験してください。」と伝えました。

そうすると企業にとっては、子どもたちが2日間、午後2時から3時ぐらいまでですから非常におじやま虫。邪魔になってしょうがないのですが、気持ち良く引き受けてくれます。そして、顔見知りになれば朝の通学や下校時に必ず声をかけてくれる。こういうことがいろいろな面で防犯に役立っていると感じております。

富雄地区子ども安全対策協議会（奈良県）

奈良からまいりました安達と申します。荒木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

最初にお断りしておきたいのは、防犯活動は地域によって違いますし、ボランティアによっても違いがあります。それぞれの地域における特性がありますので、必ずしも私が今から申し上げることが良いということではないことを前提として、少しお聞きいただければありがたいと思います。



活動地域の紹介

この写真は富雄地区を撮影した航空写真です。地区の世帯数は約5,400世帯、人口は約13,500人。まだ、少しずつではありますが人口は増えています。子どもも増えております。地区内の集合住宅については62%を占めており、地域活動を考える場合は戸建住宅、集合住宅、マンション等、いろいろな活動上の差があります。



団体の概要 ～楓ちゃん事件を通じて～



富雄地区では、平成16年11月17日に富雄北小学校の1年生だった有山楓ちゃんという女子児童が誘拐殺害され、そして遺棄されるという事件が発生しました。

私どもは「富雄北小学校の」とは言わず、「楓ちゃん事件」と言い続けております。

これは楓ちゃん御両親の願いでもあります。「楓を忘れてくれるな」ということで、我々は今でも「楓ちゃん、楓ちゃん」と言っております。「地域は一人の少女の命を守れなかった」ここが私たちの活動の原点です。楓ちゃん

事件を振り返ってみたいと思います。事件の発生は平成16年11月17日。被害者は下校途中の小学校1年女児の有山楓ちゃん7歳。こういう性犯罪の被害に遭うのは7歳が多いようです。これは本当に頭が下がりましたが、奈良県警さんの努力で翌月の12月30日に犯人は逮捕され、地域としては、やはり安堵したということは偽りない心境でした。犯行現場については、連れ去り現場と殺害現場と遺棄現場の3つに分かれています。私は当時、マスコミの方からいろいろ取材を受けましたが、「安達さん、犯人が憎いですか」「犯人は怖いですか」というのがだいたいのマスコミの質問でした。それはそうだけれども、そうではなく、私は「一人の少女の命を守れなかった」という地域としての

無念さと反省しかありません。「この反省なくして楓ちゃん事件の今後の対策はありません」と言い続けてきました。この事件は富雄地域の地域活動の在り方そのものであり、活動内容を問い直す機会となったわけであります。

皆さんも御存知のように集団登下校活動で完璧に見守っても、子どもが犯罪から守られるのは、全国にいろいろなデータがありますがけれども、だいたい15%といわれております。

つまり、85%はもっと別の手段がいるということです。その安全安心のまちづくりの手段として、集団登下校もあるという位置付けをしております。



まず、これが連れ去り現場であります。そして、5つの自治会のマンション群がこの周りにあります。通りには木がありまして、約2メートルの青い塀が約60~70メートル繋がっています。これは何かと言いますと、青い塀の向こう側には戸建住宅があり、防音と目隠しとなっています。ここを楓ちゃんたちが通っていたのです。小宮先生のお言葉を借りますと、当然入りやすく見えにくい環境であります。これは、楓ちゃんの自宅から約200メートル先の路上で、マンションに逃げ込もうと思っ

ても、いわゆるゲートッド・コミュニティと言われているように鍵は掛かっている。誰もいない、逃げ込もうとしても入れないというマンション群であります。そして幹線道路。道路サイドには防護壁。ここは、日中の人通りが少ない時間帯。犯人は知能犯だと考えております。これが事件の関係地図です。それぞれ、連れ去り現場、殺害現場、遺棄現場となっています。

私どもは毎年11月17日には必ずお参りをしていますが、今でも現場に行くと涙がこぼれます。

事件直後の対策 = 見守り活動実施へ =	
11月18日昼	警察・地区団体代表者が緊急会議
	緊急自治会長会議
11月18日夜	① 事件の概要と当面の対処方針 ② 全世帯、見守りチラシ5,000枚
11月28日	「集団登下校」自治会長会議 ① 基本理念&実施計画 ② 自治連合会が主導 ③ 保護者責任論 ボランティア確保
12月6日	集団登下校 無事スタート

事件直後、私たちがどのような対策をしたのかについては、事件翌日の昼には警察と地域団体との緊急会議、夜には自治会長会議を行って、事件の概要と当面の基本的な対処方針等の協議をしました。子どもを見守ってほしい、声をかけてほしいという見守りチラシを5,000枚印刷して、19日には全自治会に配りました。その後は自治会長会議を行い、集団登下校に関する基本理念や自治計画、自助・共助・公助について協議を行いました。

その当時、奈良市西部地区に居住する奥様方の就業率は約41%でした。乳飲み子を抱えたり、介護を抱えています。もし、学校外の通学路は保護者の責任だといった場合、付き添いを行うためには仕事も辞めなくてははいけない。私たちは、「社会環境、社会的、経済的にもそんなことはできない」という考え方から、学校外の通学路については自治連合会が主導することとなりましたが、自治会長会議では一番もめました。

集団登下校の理念 ~子どもを一人にしない~

そして、事件から19日後の12月6日、集団登下校がスタートしました。

集団登下校を実施するに当たって、「子どもを絶対一人にしない」「家から学校まで、学校から家まで一人にしない」という基本原則の下に4つの理念を考えました。

この理念は今でもそのまま掲げて活動を続けております。

まず1つ。当たり前のことかも知れませんが「子どもの安全」「集団登下校での子どもの安全」です。

この集団登下校が完全な制度でない限り、保護者たちは子どもたちを集団登下校のシステムに預けたとしても、

「不安だからやはり私が行くわ」となってしまう。だから、制度そのものは保護者の信頼に絶対応えなくてはならないということが大事でありました。

それが地域主導の公助であり、地域が集団登下校を行って子どもを守ろうというのが第一の理念であります。

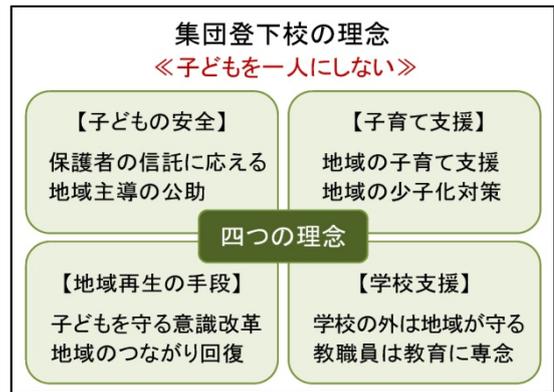
2つ目に我々が当時考えたのは、「富雄地区は子育てにやさしいまちづくりをしようじゃないか」ということです。この活動は地域の子育て支援、お母さんの子育て支援だと。

サザエさんの3世代を見ていただいてもわかりますように、波平さんとフネさんがワカメちゃんと孫のタラちゃんの面倒を見る。真ん中のマスオさんとサザエさんが働く。これを地域に置き換えれば、地域が小学生、子どもたちを見守るのは当然ではないかというのが考え方でありました。そして、これが地域でできる少子化対策ではないかと考えたわけでありました。

3つ目についてですが、事件が発生した時、学校はパニック状態でした。私たちは学校の先生に「学校の外は地域が守るから、先生は教育に専念して下さい」「学校の中では子どもをよろしく願います」という強いメッセージを発することが必要だと考えました。

その当時のことを先生方に聞きますと、「本当に安心した」というお言葉を返していただいておりますが、今でも「学校の外は任せなさい」と学校に言っております。

この集団登下校は「地域再生の手段」、つまり「安心・安全のまちづくりのための集団登下校にすぎないのだ」と考えました。先ほど申しましたように、集団登下校で子どもたちを守ることができるのが15%ですから、残り85%は別のいろいろな地域の活動でやらなければいけないのです。



集団登下校システムについて

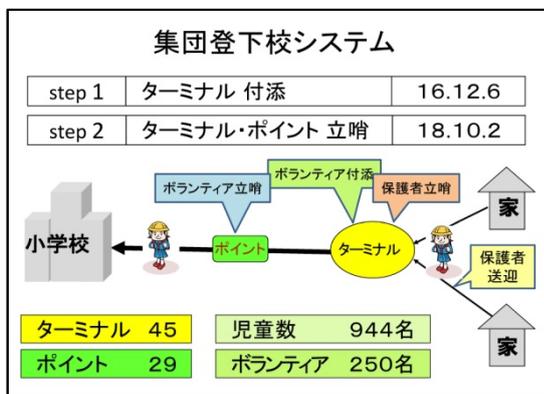
私たちが実施している集団登下校システムについて説明します。事件発生当時の集団登下校システムについては、ボランティアによるターミナル方式の付き添いを行いました。

ターミナルとは、家の近所にある集合場所を言います。ターミナルは全部で45か所を作りました。各家庭からお母さんたちは子どもたちを近くのターミナルまで送ります。ターミナルからはボランティアが子どもたちに付き添って学校まで送り届けるというものです。帰りはその逆であり、ボランティアが子どもたちに付き添って学校からターミナルまで送り届けて、保護者がターミナルまで迎えに来ます。そうすることで子どもを一人にしないわけでありました。当時の富雄北小学校の児童数は944名。ボランティアも計算上250名以上が必要となることから、自治会長さんの協力により1週間くら

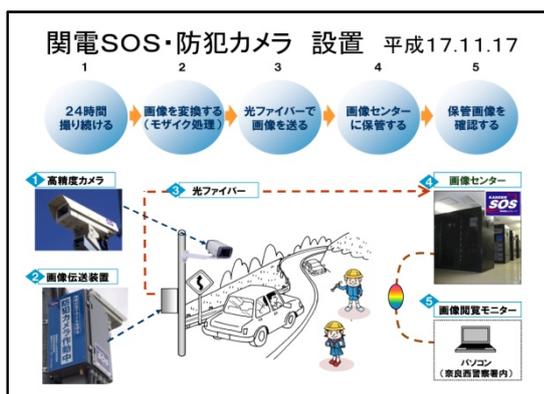
いで 250 名を集めていただきました。ターミナルの中には、学校から一番遠いところで約 1.5 キロも
あります。往復すると 3 キロで郊外もありましたが、このシステムを約 2 年間実施しました。

そして、平成 18 年 10 月 2 日からはボランティアの負担軽減を図ることを目的として付き添い方式
ではなく、ターミナルと立哨ポイントによる集団登下校システムに変更しました。付き添いによる活
動を続けるには難しいだろうということから新しく 29 か所の立哨ポイントを作って、そこにボランテ
ィアを配置して子どもたちを見送ろうではないかと考えました。つまり、保護者は毎朝ターミナルま
で送っていき、各ポイントに配置しているボランティアさんが集団登下校する子どもたちを見送ると
いう形で現在は進んでおります。

これは現在の登校風景であり、通学路の立哨ポイントにボランティアさんが立っています。集団登
下校をするチームごとに旗を持っていますので、ボランティアが旗を確認することによって全ての子
どもたちが通過したかを把握します。この集団登下校は、「自分の大切な友達を守って下さい」という
楓ちゃんの遺産の制度だと思っております。



街頭防犯カメラの運用



私たちの地区には 4 か所 8 台の街頭防犯カメラを設
置しております。楓ちゃん事件発生から 1 年後の平成
17 年 11 月から運用を開始しておりますが、関西電力
の子会社である関電 SOS という防犯カメラの会社か
ら富雄北小学校の通学路をモデル地区にしたいとの御
提案がありまして、奈良県警察、奈良市さんの御協力
などにより実現することができました。システムにつ
いて説明すると、この街頭防犯カメラは高性能なカメ
ラであり、夜間も遠くまで撮影することが可能なもの

です。録画した内容を柱の下側にある画像伝送装置に移して記録を暗号化し、光ファイバーケー
ブルにより大阪の画像センターに送り一定期間保存します。その周辺で何か事件があれば警察からの依頼
により画像を閲覧することになりますが、これは一定のルールがあります。私たちのまちを管轄して
いる奈良西警察署内に画像閲覧モニターというパソコンが置いてあります。お巡りさんがいつでも見
られるかというそうではなく、何かあった場合、いついつの何時から何時何分までの録画内容を確

認したいという了解を私に求めてきます。そして、閲覧について了承しますと関電SOSさんからIDとパスワードを与えてもらい、見るができます。これまでに私自身が1回も録画内容を見たことがないというくらいプライバシーを安全に保護しています。

設置費用については約560万円かかりました。モデル地区ということもあって、費用については関電SOSさんに全部出していただきました。ランニングコストは年間120万円前後であります。これは奈良市さんに全額負担していただいております。つまり、これは富雄の子どもを守る活動に関して、行政を含めて地域の皆さんが毎年富雄地区のためにお金を出していただいているという感謝の念で、この運用を行っております。

初心を共有するためのフォーラムの開催

富雄地区子ども安全対策協議会では、「楓ちゃん事件の発生を許したという地域の反省がなければ見守りは長続きしない」「もう一度初心に戻って考える」を合い言葉として、平成22年1月に地域住民参加にかかる同種事案の完全防止を誓い合うフォーラムを開催し、鎮魂曲「レクイエム楓の風」を作成するなど、地域における絆の醸成を図るとともに、ボランティア団体としての活動の活性化を図っております。この時は約350名を集めまして、事件の風化防止と初心の共有を目指し、そして未来へ11月「17」という日をつないでいこうと考えました。この初心の共有についてですが、事件以降に富雄に転入してきた人もありますから、新しく来た人は楓ちゃん事件のことを知りません。ある意味では初心がないわけです。したがって、後から来て事件を知らない人も事件を語り、そして初心を共有してもらおうというわけであります。



活動の評価と課題

活動の評価と課題として1つだけ申し上げておきます。まずは子どもの成長です。何かといいますと、4年前のことですが、小学校を卒業するイトウ君という子どもから手紙をもらいました。その手紙には「僕は卒業しました。今度グループのリーダーになるのは5年生の〇〇君です。まだ心もとない。4月になれば1年生も入ってきます。どうぞ指導をよろしく、そして1年生まで見守ってあげてほしい。」ということが書かれておりました。

6年生の子どもがそういうふう成長したということです。集団登下校でいろいろなことがあります。もっとのんびりして歩きたいとかありますけれども、やはり子どもが集団行動でしか学べないものを学んでくれていることは大変うれしいことだと思います。

活動の評価と課題	
評価	▶ 子どもの成長 <卒業生から届いた1枚の手紙> 集団行動で学ぶ・思いやり・責任感・忍耐力
	▶ 活動が、地域との信頼感を醸成 「自分達は、地域から守られている」子ども達は実感 「知らない人とは、話をしない」子どもの躰を救う
	▶ ボランティア活動・・・住民の相互理解と交流が進む ▶ 子どもへの関心が高まり、地域教育力が向上
課題	▶ ボランティア及びコーディネーターの確保
	▶ 地域を支える人材育成
	▶ 持続可能性を高める施策の推進

課題についてはボランティアの問題でございます。

私は十数年前にスイスのツェルマツトというまちに旅行へ行きました。御存知の方もおられると思いますが、このまちに入るには、少し手前の所で観光バスを降ろされて、まちには列車で入って行きます。写真には2頭立ての馬車、小さな電気自動車が見えますが、要するにこのまちは排気ガスを拒否しているまちなのです。まちの人に、冬はどうするのかと聞いたらソリだそうです。「ああ、スイス人って頑固な人々だな」と思いました。「排気ガス拒否でまちを作る」というまちづくり自体が一つのツェルマツトの文化になっているのだなと感じまして、安全・安心なまちづくりとはこうでなければならないと思いました。私は、「安全安心のまち富雄地区は、日本のツェルマツトを目指す」等とかっこいいことを言っております。御清聴ありがとうございました。



質疑応答

●質問 防犯カメラの性能についてお聞きしたいことがあります。1.5 キロの間に4か所設置されたようですが、効果的な置き方が気になりました。例えば誘拐事件の現場のような視認性の確保ができないところに設置するのか、それとも大きい道路が通っている幹線道路に置くのか。効果的な置き方がありますか。

○回答 効果の測定というのは極めて難しい問題だろうと思います。もちろん、その後、事件は発生しておりません。例をお話ししますと、「富雄の土地価額が3か所で少し上がっている」「富雄は子どもを守る安全安心なまちということで頑張っている地域だから」とある不動産会社の方から聞きましたが、防犯カメラの効果と言われれば非常に難しいです。防犯カメラがなければ効果はなかったのか、何か事件が発生して防犯カメラにより捕まったら効果があるのか、ということです。ですから私たちは、街頭防犯カメラを据えているということで一つの抑止効果があると考えております。

●質問 先ほど集団下校を行うに当たって、いろいろ長い時間討議をなさったということですが、250名のボランティアさんの年齢層をお尋ねします。

○回答 ボランティアの年齢は、60代、70代以上で約70%ぐらいとなっています。男女別には47~48%でだいたい拮抗しています。

●質問 どういう方法でそのたくさんの方を集められましたか。

○回答 もちろんPRをいたしました。やはり自治会長さんの力です。1週間という短期間で250名ものボランティアさんを集めてくれということ。自治会長会議で協議して「これは地域が主導でやる」とか、「いやそうではない、これは保護者の責任ではないか」などとの議論が1時間半くらい続きました。そして、「250名のボランティアをお願いします」と言ったら、みんな怒りました。そんなこと無理だと。これは理屈じゃない。理屈ではなく地域として早くやらなくてはいけないということ。議論した結果、自治会長さんが責任を持って集めてくれたのです。あの時はいろいろなことを言われて参ったのですが、自治会長さんが260名ほど集めてくれました。やはり自治会長さんの力はすごいです。今でも感謝しています。

上越市役所（新潟県）

皆さん、こんにちは。私たちは、新潟県の上越市というところから参りました、上越市役所防災危機管理課・防犯交通安全係の山岸と上原と申します。本日はどうぞよろしくお願いたします。



上越市の概要

上越市は、平成17年1月1日に1市13町村で合併し、平成19年4月1日に特例市へ移行しました。人口は、平成24年8月末現在で20万3,897人。新潟県内では新潟市、長岡市に次ぐ人口数で、海岸部を除いた地域は全国有数の豪雪地帯となっています。

戦国時代の名将・上杉謙信の居城として知られる春日山城跡があり、2009年の大河ドラマ『天地人』の舞台となりました。他にも、日本三大夜桜で知られる高田城100万人観桜会、謙信公祭、はすまつり、レルヒ祭など数々のイベントがあります。

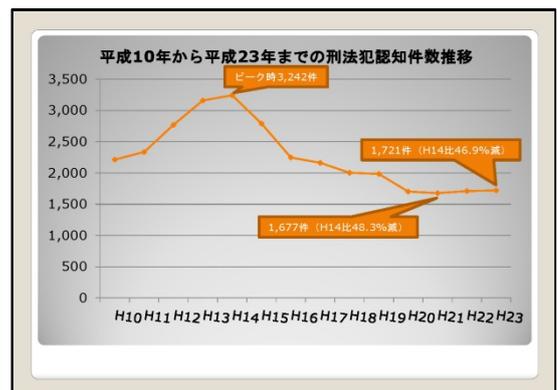


上越市の犯罪情勢

では、上越市の犯罪情勢はどのようになっているか、御説明します。

今御覧いただいているグラフは、平成10年から平成23年までの刑法犯認知件数の推移です。上越市の刑法犯認知件数は、2,000件を超えた平成10年以降増加を続け、平成14年には過去のピークである3,242件を記録しました。

その後、市民、警察との三位一体の活動によって、平成21年までの間、7年連続で減少しました。平成22年以降、微増傾向にあります。おおむね横ばいとなっています。



上越市の取組

そこで、上越市の防犯への取組は、どのように始まったのか御説明いたします。

平成15年5月に市と警察署で、「上越市“あんぜん・あんしん”街づくり懇談会」を設立し、市・警察相互の支援・連携体制の確立、“安全・安心”に対する市民意識の高揚、犯罪を防止するための社会環境づくりについての取組が始まりました。

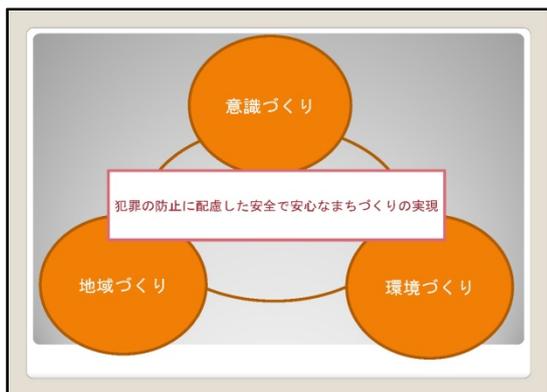
また、多くのボランティアの皆さんが、オレンジベスト、オレンジキャップを着用し、自主防犯パトロール活動がスタートしました。

上越市で多くの人に着用されているベストの右胸部分には、上杉謙信公の軍旗である「懸り乱れ龍」が描かれています。

このような活動を始めた中で、平成18年10月1日に「みんなで防犯安全安心まちづくり条例」が施行されました。この条例は、市及び市民一人一人がお互いの人権を尊重しながら、「地域の安全は自ら守る」との認識を持ち、それぞれの責任を果たしつつ連携し、行動することの重要性、市民はもとより、上越市を訪れる人々も含め、みんなが安全で安心してこの地で暮らし、滞在することができる、安全で安心な街づくりを推進することの必要性をうたっております。



推進計画に基づく行動（3つの基本方向）と取組



そして翌年、本条例をもとに「みんなで防犯安全安心まちづくり推進計画」を策定しました。「みんなで防犯安全安心まちづくり推進計画」に基づく行動、3つの基本方向と、取組について御紹介いたします。

この推進計画は、意識づくり、地域づくり、環境づくりの3つの基本方向に取組、犯罪の防止に配慮した安全で安心なまちづくりの実現を目指すものです。

まず、意識づくりです。意識づくりにおいては、「地域の安全は自ら守る」という自主防犯意識を高めるための

取組を進めております。①防犯意識の広報啓発、②防犯教室、講習会の開催、③防犯情報の提供が主な施策です。



具体的に御紹介をすると、まず、「上越市防犯の日、防犯週間」です。これは毎年7月12日を「上越市防犯の日」と規定し、また、その直前の土曜日から直後の日曜日までを「上越市防犯週間」として、安全安心まちづくりへの関心や、理解を深めてもらう目的で指定しています。

期間中は、全市的に防犯パトロール、児童見守り活動、通学路の安全点検、こども110番の家の確認などの活動の実践を通し、市民等との自主的な取組の気運を高めています。

写真は地区の防犯組合が主催となり、防犯啓発ブックを配布しているところや、防犯ボランティアとの集団下校、防犯ボランティアとの顔合わせの様子です。この期間中、平成24年度は延べ715団体、3万4,944人から活動に御協力をいただきました。

次に安全教室です。これについては、犯罪被害の防止を目的として、市内の幼稚園、保育園、小学校で開催しているものです。市だけでなく、主任児童委員や、民生委員、児童委員、警察と協働し、「いか・の・お・す・し」の防犯標語をテーマに、紙芝居やパペット劇で指導しています。

次は、上越市安全安心アドバイザーです。平成19年度から、元警察官や防犯活動のリーダーの方をアドバイザーとして委嘱をし、現在3名により地域での防犯出前講座を実施しています。町内会や高齢者の集い等において、住宅防犯診断、子どもの安全対策、振り込め詐欺被害防止等、申請段階の要望に応じた指導や助言を行っております。



続いて、安全メールです。安全メールは防犯情報、防災情報、交通安全情報、その他の情報について、事案が発生した際に市からメールで配信しているものです。

防犯情報については、不審者情報や振り込め詐欺前兆電話に関する情報を配信しています。現在約4,600件の登録があります。

3つの基本方向の2つ目、地域づくりについて御説明します。

地域づくりにおいては、お互いに守り、支えあう地域づくりのための取組を進めております。①自主防犯活動の推進、②人材の育成、③安全の確保について配慮を必要とする方が安全で安心して暮らせる取組の推進、④青少年健全育成活動の推進が主な施策です。

この地域づくりに関する事業の1つで、上越市110番協力車制度があります。これは犯罪の抑止と防犯意識の醸成を図る目的で、車両に「110ばん協力車」と書いたステッカーを貼付し、日常的に「ながらパトロール」を展開するものです。現在、一般市民や業者の方から協力をいただき、約3,600台が市内を走っています。

次に、青色回転灯パトロールです。市の車16台と、ボランティアの方1台、計17台の青色回転灯装着車



が市内を巡回しています。

次は、上越市安全安心リーダーです。平成19年度から平成23年度までの5年間、防犯活動に対するノウハウを習得する人材を育成するための養成講座を開講し、226名のリーダーを養成しました。

現在、218名のリーダーの皆さんから、地域の防犯活動のけん引役として、パトロール活動や、児童見守り活動、広報啓発活動等に従事していただいています。

安全安心リーダーや防犯ボランティアの皆さんと防犯活動を共有するため、明日、「みんなで防犯安全安心まちづくり in 上越 2012」を防犯協会、警察、市の主催で、日本ガーディアン・エンジェルの小田理事長様を講師にお迎えして、講演とパネルディスカッションを開講することとしています。

では、3つの基本方法の3つ目、環境づくりについてご説明します。

環境づくりにおいては、安全で安心して暮らせるための取組を進めています。①犯罪の防止に配慮した基盤（インフラ）整備、②犯罪の防止に配慮した住宅等の普及、啓発、③学校・通学路等における児童等の安全確保のための取組の推進、④相談業務の整備を主な施策としています。

環境づくりにおける主な事業として、防犯灯、道路照明等の整備があります。

犯罪の起きにくい環境づくりのため、通学路や集落外については市で、集落内については町内会で防犯灯を設置しています。平成23年度末の設置数は2万8,763灯です。

また、安全マップの作製支援として、小学校や町内会でのマップ作りに参加し、そのノウハウの伝達を行っています。犯罪の起きそうな所はどこか、どんなところに気をつければよいか、作製者と共に歩き考えています。



地域活動への支援等

最後に、地域活動への支援です。地域活動支援事業とは平成22年度から実施しているものであり、地域活動の向上を目的に、それぞれの地域における課題解決を町内会等の団体等で提案。28の地域協議会で審議の上、助成事業を実施しています。事業の流れは、事業提案書の受付、地域協議会での審査、採択事業の決定・公表、事業実施、実施結果の公表、成果報告会の開催です。

これまで防犯について採択された活動は、安全安心マップ作製、安全安心まちづくりパトロール事業、少年の健全育成活動事業、防犯灯整備事業です。

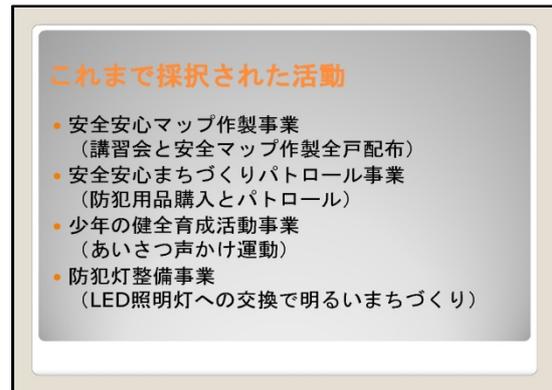
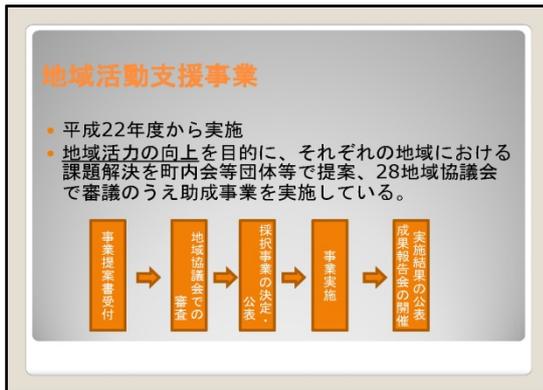
この中で、1つの町内会のパトロール事業を御紹介します。

この町内会では、安全に安心して日々の生活を過ごせるようにとの思いで、全世帯が参加するパト

ロール事業に平成 22 年度から取り組んでおります。取組に当たっては、パトロールベスト 350 着の購入が採択されました。この町内では、年間を通じてパトロール活動が行われております。

今後、地域が持つ連帯感や地域の目の活用し、日中一人暮らしの防犯対策の促進を行い、地域の特性を生かし、地域の課題解決に向けた安全安心まちづくりに取り組んでいきたいと思っております。

当市は、平成 27 年春の北陸新幹線開業に伴い、東京や北陸地方からのアクセスが非常に便利になります。海や山などの自然、歴史、文化等豊富な当市に、是非おいでいただきたいと思っております。御清聴ありがとうございました。



質疑応答

●質問 人口 20 万人であれば、市役所の職員が 2,000 人位いると思っておりますが、その方たちは、地域で活動にかかわっていらっしゃるのでしょうか。

また、先ほど人材育成で 218 名ほど育成されたという話を伺いました。市の職員が地域でそういう意識を持って、地域活動に取り組むというのも、一番直接に分かりやすい防犯、安全安心活動ではないかという気がいたします。私のところでは、青パトを回すときも、土曜、日曜は、基本的に県の職員、市の職員が乗る日というふうに一応決めております。行政は、計画を作って、システムを作って、ハードの整備をすれば、それで役割は終わっていますというような言い方を往々になされますが、それだけではなく、もう一歩地域に入り込むというのは、私は非常に必要ではないかと思っております。御見解をいただければ幸いです。

○回答 上越市の山岸と申します。一例でございますが、上越市では青パトを 16 台保有させていただいております。その中で、警察の方から青色回転灯にかかる実施者証を約 300 人の職員が受けております。それぞれの所属の垣根を越えて青パトを運行しましょうということで、2 年に 1 回警察署の方に来ていただいて、講習を受けております。そういうことで、できるだけ地域に出かけて、地域の実情に沿った活動をするようにということで取り組んでいるところでございますので、御理解いただければと思います。町内活動に関しても、進んで動いております。

東初石1丁目自治会自主防犯パトロール隊（千葉県）

皆さん、こんにちは。東初石1丁目自治会自主防犯パトロール隊の活動について発表いたします。我がパトロール隊は、自治会のスローガンで「安全安心の町づくり」・「絆」を大切にして活動しております。



活動地域等の紹介

私どもの流山市は、千葉県の北西部に位置し、人口は約16万5千人、都心から25km圏、安全安心な緑豊かな住みよい町です。市内を流れる利根運河は、春には桜が満開となり、たくさんの花見客で賑わいます。

私どもの自治会について紹介いたします。流山市には174の自治会がありますが、この1つが我々の自治会で、632所帯1,533人の町です。ちなみにお祭りが大好きな自治会です。今年の夏祭りも大いに盛り上がりました。

自主防犯パトロール隊の発足経緯

それでは、私どもの自主防犯パトロール隊の発足経緯について説明します。平成15年は、全国各地で子どもたちが被害に遭う事件、犯罪が多発していました。この状況を踏まえ、「自分たちの町は自分たちで守ろう」との考えで、平成15年7月に防犯パトロール隊を結成いたしました。これは流山市第1号です。平成17年の自治会役員会議で、更なる体制の強化を目指し、「自主参加型」を決定しました。早速、この年の12月18日、自治会館に22名の方が集合し、自主防犯パトロール隊の第一歩を踏み出しました。

私どもの自治会館は、平成19年10月10日、千葉県公安委員会より地域防犯情報センターに指定され、パトロール隊の拠点となっています。

自治会防犯パトロール隊の発足経緯

全国各地で子供に対する事件、犯罪が多発している状況を踏まえ、「自分の町は自分で守ろう」と、防犯パトロール隊を結成しました。

- ◆平成15年7月 防犯パトロール隊が発足（流山市第1号です。）
- ◆平成17年12月 自治会役員会議で、更なる体制強化を目指して、「自主参加型」に決定しました。
- ◆平成17年12月18日（日）自治会館に22名の方が集合して、直ちにパトロール活動を行い、自主防犯パトロール隊の第一歩を踏み出しました。



自治会の防犯シンボルマークには「となり近所が見ています！」と書かれています。このシンボルマークのステッカーを全世帯に掲出しています。また、防犯パトロール実施中の旗も町内に 23 本設置してあります。



パトロールは活動拠点の自治会館に自主的に集合し、昼の部は午後 2 時 30 分から行っています。このパトロールは、子どもたちの下校時間に合わせて子どもの安全確保を中心に行うものです。夜の部は、午後 8 時から拍子木、マイクを使い、「戸締り・火の用心」を呼びかけております。現在のパトロール隊員は、男性 55 名、女性 28 名の計 83 名の構成となっております。



パトロール隊の防犯に対する知識の向上を目的として、講習会を年に 2 回開催しております。講習会は流山警察署から防犯に関する講話を聞くとともに、流山市長から御挨拶をいただきます。講習会の後は、パトロール隊全員で懇親会を実施しています。この懇親会は、隊員相互のコミュニケーションを図る場となっております、活動の源となっております。



子ども防犯パトロール隊の活動概要等

「子ども防犯パトロール隊」の発足経緯と活動概要について説明します。子どもたちパトロールを行いたいという希望があり、また、小さいときから防犯意識を育てることを目的に、流山警察署、流山市役所に相談し、平成 19 年 10 月 6 日に「子ども防犯パトロール隊」が発足しました。毎月第 1 土曜日午後 3 時に自治会館前の公園に集合し、町内のパトロールを実施します。防犯チョッキ、帽子、パトロール実施中の旗を持ち、町内のパトロールを行います。小さなお子さんは父兄同伴で参加します。パトロールの終了後は、犯罪や交通事故に遭わないための勉強会を実施しています。子どもたち

もパトロールに慣れたものです。ママと拍子木をたたきながら町内をパトロールした後、自治会館に戻ってきて、その月のテーマにより様々な取組を実施しています。その1つとして、流山警察署交通課のお巡りさんによる自転車教室があります。自転車に乗る前は点検しよう。皆さんは御存知ですか。「ブタはしゃべル」。これで自転車の点検箇所を勉強しました。

子供防犯パトロール隊の活動

活動内容

- ◆ 毎月1回 第一土曜日 午後3時から自治会館に集合し、町内のパトロールを実施します。
- ◆ 防犯チョッキ、帽子、「パトロール実施中の旗」を持参し、マイクで「防犯パトロールの実施中」と拍子木で「火の用心」の呼びかけを行います。
- ◆ 幼児の参加は、父兄同伴としています。
- ◆ パトロール終了後、子供達自身が犯罪や交通事故に遭わないための勉強をします。ビデオやDVD等を使用して、防犯活動や交通ルール等を分かり易く説明しています。



公園での自転車教室では、自転車の正しい乗り方を勉強しました。雨の日は室内で自転車教室です。ビデオ等を使用して、自転車の正しい乗り方について理解を深め、自転車に乗るときは十分に注意することをみんなで認識しました。



ヒヤリ・ハット教室では、流山警察署交通課の皆さん、流山市役所の皆さんにヒヤリ・ハットの説明を受け、子どもたちが町内の危険箇所丸印をつけ、危険な箇所を確認しました。

また、子どもたちによる交通安全紙芝居を上演し、自分たちで交通ルールについて学ぶとともに、流山市民安全パトロール隊に講話を依頼し、犯罪についてお話を聞きました。

勉強会後のお楽しみとして、ダーツゲームやお菓子をプレゼントします。

以上、「子ども防犯パトロール隊」の活動について説明をしましたが、この活動による効果について説明します。

子供防犯パトロールの効果

1. 子供達間の連帯が生まれた。
2. 悪い事は駄目であるとの意識を持たせた。
3. 交通ルールを守る意識を持たせた。
4. 拍子木の音は「火の用心」・・・
この音の意味を理解させた。・・・

*子供達がこの拍子木をたたいた事、拍子木の音を聞いて大人になる事は、意義のある事と思います。
今後の子供達の健全育成に努めていきます。

まず、子どもたちの間の連帯が生まれました。また、子どもたちに防犯意識を持たせ、悪いことはだめであると理解させることができ、交通ルールを守る意識が芽生えました。さらに、拍子木の音は火の用心という、この意味を説明し、子どもたちが実際に拍子木をたたき町内をパトロールした経験は、とても意義あることと思います。今後とも地域の子どもたちの健全な育成に努めていきたいと思っております。

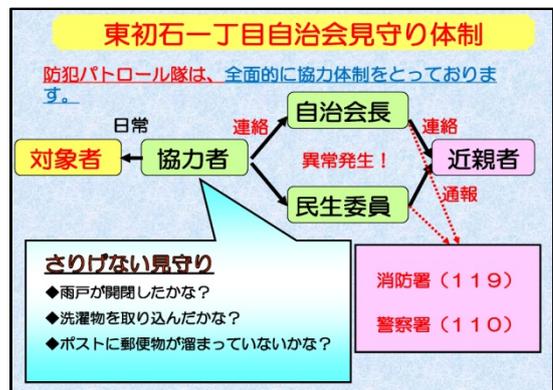
自主防犯パトロール隊の活動内容

次に、自主防犯パトロール隊の様々な活動について説明します。

振り込め詐欺防止やひったくり防止のチラシの配布活動を駅前やスーパーの店頭で行い、地域の皆様に御理解と御協力をお願いしました。

また、一人暮らし高齢者の見守り活動を実施しています。これは、自治会での見守りプロジェクト体制に防犯パトロール隊も全面的に協力して行っているものです。見守り活動を把握するため、アンケート調査を実施し、併せて見守り協力者を募っております。見守り協力者は見守り希望者のご近所の方で、「さりげない見守り」を行っております。

この「さりげない見守り」とは、雨戸が開いたかな、閉まったかな、洗濯物が取り込まれたかな、ポストに郵便物がたまっていないかななどを確認する見守りです。これで異常が発生した場合、協力者は自治会長又は民生委員に連絡いたします。自治会長又は民生委員は必要に応じて消防署や警察に通報するとともに、近親者の連絡先をあらかじめ聞いてありますので、速やかに近親者に連絡をいたします。



リフォーム業者が訪問していました。

昨年確か、壁・屋根工事をを行った筈？
(パトロール隊員が感知しました。)

民生委員・自治会長がご主人に聞いたところ、業者から壁屋根の悪い所の写を見せて「この様に傷んでいます」説明され、工事を行う事にしたとの事です。

近所の工務店員に聞いたところ、「工事の必要はまったく無い」との事でした。

早速、「流山市消費者センター」に相談したところ、この工事は高齢者を狙った「悪徳商法」である事と判明しました。このため、「クーリング・オフ」の葉書を郵送し、事なきを得ました。(契約金額は350万円でした。)

見守り活動の具体例について説明します。

今年の2月のことです。高齢者の御夫妻の家で足場ができてのを見たパトロール隊は「何が始まるのだろう」と感じました。すると、リフォーム業者が訪問しておりました。確か、昨年秋に、壁や屋根の工事をを行ったはず。パトロール隊はピンとききました。御主人に聞いたところ、業者が何回も訪問し、壁や屋根の悪いところの写を見せて、「このように傷んでいますよ」と説明され、工事契約を行ったとのことでした。近所の工務店の方

の方に聞いたところ、「工事をしたばかりなので、全く工事の必要はない」とのことでした。早速、流山市役所消費者センターに相談したところ、これは高齢者を狙った悪徳商法であることが判明いたしま

した。契約金は350万円でした。このため、クーリング・オフのはがきを郵送し、業者が2日後、足場を撤去し事なきを得ました。全く工事の必要のない家でした。これは自治会長、民生委員、防犯パトロール隊の迅速な連携プレーの賜物と言えます。

次に、東日本大震災当日のパトロール隊の活動について説明をします。

流山市も震度5弱に見舞われました。パトロール隊が当日自治会内を点検した結果、瓦屋根の破損28件、ブロック塀の倒壊3件の被害状況を流山市に通報いたしました。

被害者の中に83歳一人暮らしの方がいました。この家の瓦屋根が約150枚落下してしまいました。余震があり、瓦の落下が続いておりましたので、私どもパトロール隊は消防へ通報し、消防隊員によりブルーシートを掛けていただき、応急処置をしていただきました。これで、高齢者の方も一安心でした。



夜のパトロール隊は「まだ余震があります。特に火の取り扱いには十分ご注意ください。」とマイクで呼びかけを行いました。また、自治会内に踏切があり、踏切の警報が鳴り止まず交通に支障があるため、交通整理を行いました。以上が東日本大震災当日のパトロール隊の活動です。

高齢者への「振り込め詐欺防止」講話会について説明します。

老人会の施策の一環として、流山警察署主催による「振り込め詐欺防止」講話会が開催され参加しました。若いお巡りさんや女子銀行員さんによる講話会を開き、詐欺には絶対に騙されないという強い気持ちを持ちました。



次に、防犯パトロール隊のその他の活動について説明します。

パトロール実施中という旗の取替え作業です。この旗の破損や汚れは防犯上好ましくありませんので、定期的に取り替えを行っております。また、防犯パトロールニュースを発行しております。これは防犯に関する情報新聞です。防犯パトロール隊の発足した平成17年12月から現在まで、75号を発行しております。毎月発行し、自治会組織を通じて全世帯に配布しており、防犯意識の向上に役立っております。

さらに、流山市、流山警察署主催の年末年始特別警戒出動式に、他の地域の防犯パトロール隊と一緒に参加しました。

ここで最近起きました、防犯パトロール中での出来事について紹介します。

パトロール中に不法投棄物を発見し、直ちに流山市役所に不法投棄物の撤収と防止措置を依頼しました。発見から数日後にはさらに大量の不法投棄物が捨てられておりました。パトロール隊はこのような行為は絶対に許しません。後日行政により不法投棄物が撤収、警告板が設置されてきれいになりました。

活動への参加状況とその成果

自主防犯パトロール隊の様々な活動について紹介をさせていただきましたが、発足当初から現在までの隊員の参加状況とその成果についての説明をいたします。

パトロール活動への参加状況ですが、平成17年から毎年延べ約3,700人から3,800人の参加があり、1日平均約10名の自主参加となります。平成23年は延べ3,679人、1日平均10.1人の参加がありました。パトロールは年中無休で年末年始も実施しております。この実績のとおり安定継続した活動が我々の強みです。

最後に、主な活動成果について説明します。自治会内で空き巣、車上ねらい等の発生が少なくなりました。お年寄りから「拍子木の音を聞き、安心してますよ」と感謝の声を聞くことが多く、この声が我々の励みになっております。また、防犯灯の球切れの早期発見ができるようになり、犯罪発生の防止に貢献しております。さらに、一人暮らしの高齢者の孤独死が発生しておりません。多くの成果が出ていますが、主なものを紹介させていただきました。

防犯パトロール隊の活動状況

◆パトロール活動 延べ参加者数

平成17年12月	158人	(12月発足)
平成18年	3,853人	(1日平均10.5人)
平成19年	3,707人	(1日平均10.2人)
平成20年	3,693人	(1日平均10.1人)
平成21年	3,660人	(1日平均10.0人)
平成22年	3,760人	(1日平均10.3人)
平成23年	3,679人	(1日平均10.1人)

パトロールは年中無休で実施しています。
(大晦日・正月も実施 但し、雨天の日は中止)

防犯パトロール活動の成果

- ◆地域内の空き巣、車上荒らし等の犯罪が近隣地域と比較して少なくなった。
- ◆放置自転車を発見した際、行政に通報する等で迅速な対応が図られている。
- ◆公園での夜遅くまで騒ぐ若者が少なくなった。
- ◆子供達から「ご苦労様」と声を掛けられ、子供達とのコミュニケーションが図られている。
- ◆お年寄りから「拍子木の音を聞き安心します。」と感謝されている。(これが我々のやりがいです。)
- ◆防犯灯球切れの早期発見により、業者手配までの迅速化が図られた。
- ◆パトロール隊員間の融和が図られた。(年2回の懇親会)
- ◆一人暮らしの方の高齢者の孤独死が発生していない。
- ◆一日のパトロールは約1時間で5,000歩の健康ウォーキングです。
- ◆各パトロール後のお茶会が懇親の場です。

流山市の犯罪発生件数の推移



参考までに、流山市の犯罪発生状況について説明いたします。

折れ線グラフが流山市全体の犯罪発生件数の推移です。青の棒グラフが隣接する自治会の犯罪件数推移です。赤のグラフが我々自治会の犯罪件数の推移で、減少傾向にあります。これは我々自主防犯パトロール隊の地味な活動の成果と確信しております。

以上、我々の活動について説明してきましたが、今後の取組といたしまして、我々自主防犯パトロール隊

は、ますます進む少子高齢化社会に向け、子ども防犯パトロール隊と共に「安全安心の町づくり」・「絆」を大切に住みよい町づくりに向け問題意識を持ち、流山警察及び流山市役所と連携を図り、更なるパトロール活動に取り組んでまいります。本日も我がパトロール隊は、パトロールに出発進行！カチ、カチ、カチ（拍子木音）！！

御清聴ありがとうございました。

質疑応答

●質問 高齢者の見守り、さりげない見守りとおっしゃっていました。ご近所の方が、雨戸が閉まったままだよとか、新聞がたまったままだよとか、そういうことに着目されるということで、その先にあったのが、近親者の方の連絡先まで聞いてありますよということでした。ともすれば、個人情報ですということで気になさる方が多い中ですが、そういった一歩踏み込んだ取組に当たっては理解や協力を得る上で配慮した点はありますか。

○回答 先ほどの発表の中でもありましたように、600世帯の自治会になります。この中でアンケートをした結果、約半数の方に答えていただきました。このアンケートの中に、協力してもいい、それから、希望するという方がいました。その中の希望する人によく尋ねてみると、近親者の住所氏名も教えていただけるということで、近親者の住所氏名は、自治会長と守秘義務のある2名の民生委員、計3名が厳重に保管しているという体制をよくお話して、御理解いただきました。

標津町防犯ボランティア組織レッドシャドー（北海道）

みなさん、こんにちは。私は、北海道は東の果て、北方領土を一望する町、標津町から参りました。私は標津町防犯ボランティア組織レッドシャドー隊長、青木 47 歳。そして、私、副会長をしております吉田と申します。41 歳でございます。こんないかつい姿の私たちではございますが、どうぞひとつよろしくお願いたします。



「ありがとうレッドシャドー」というタイトルでございますが、これは私たちの願いでございます。いつの日か「ありがとうレッドシャドー」と言われるような組織になりたいと思って常日頃がんばっております。



団体概要

さて、レッドシャドーが活動する町。朝夕に国後島を臨む標津町。国後島までの距離がわずか 24 キロでございます。町から島がはっきり見えます。北方領土がすぐ目の前にある町でございます。この町の人口がわずか 5,647 名、そのうちレッドシャドーの隊員が 58 名おります。人口の 1% が防犯パトロール隊の町でございます。

なぜ、私たちの町でこのような防犯組織が誕生したのでしょうか。平成 14 年、まさかうちの町でこんな事件が起きるとは思いもしなかった、いわゆる親父狩りという事件が起きました。そのうち 1 名は全治 2 週間のケガを負いました。被害者は、実は私どもの役場の OB でございます。事件が発生したのですが、警察に届出もしなかったということで、地元の中標津警察署では全くノーマークの事件でございました。

この事件の後、うちの町では、夜な夜な出歩くのを避け出しました。この事態を受け、最初はたった一人で平和維持活動を始めました。



これを見ていた標津町役場の若者たちが参加協力し、平成 14 年 12 月 8 日に 6 名の自主防犯パトロール隊、標津町防犯ボランティア組織レッドシャドーが結成されました。

活動内容

平成 17 年 3 月には警察本部長より青色回転灯設置の自主防犯パトロール隊の証明書を受けまして、そこからパトロールを開始いたしました。

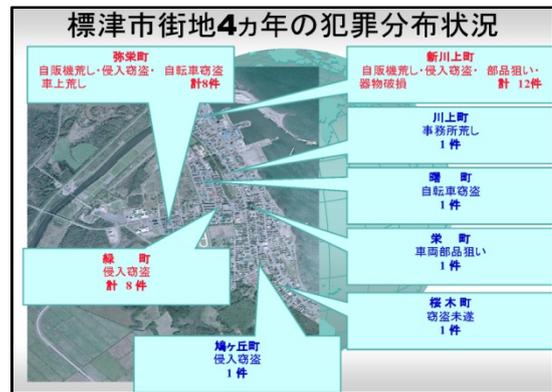
まず、私たちが着手したのは防犯マップの作成ということで、平成 20 年から 23 年の犯罪の発生状況を研究しました。防犯マップ作成のメリットといたしましては、やはり地区別の犯罪分析と予防対策ができることや犯罪の分布状況が目に見えることです。そして、このマップを使って町内会別の犯罪発生状況や危険箇所を分析し、

今後の予防対策を立て、住民の共通認識により地域一体化の防犯体制の確立を目指してまいりました。

実はうちの町、こんないかつい姿のパトロール隊がいるのですが、あまり事件はありません。ですが、4 か年の犯罪発生状況の分布を見てみますと、やはり地区によって非常に犯罪件数が多いところがあります。少ないながらもごく一部にすごく集中しています。これは地形的に犯行後の逃走ルートが犯人に都合が良いのです。あるいは、近くに廃止された J R の路線の防風林帯があったり、非常に逃げやすい部分があったり、そんなところが実は非常に事件が多いのです。このような情報を連合町内会の総会や地域の防犯担当者会議などに出席し、報告をさせていただきました。子どもたちの下校時刻の警戒ポイントというのも研究し、地域の防犯会議などに報告させていただいております。

防犯マップによる犯罪発生分布状況から児童の安全確保や夜間パトロール、徒歩パトロール、空き家の監視区域など、状況に合ったパトロールを研究、実施してまいりました。パトロール体制の更なる強化としては、犯罪防止の基本である監視の目を増やし、無監視時間帯を作らないことを重点として、地域の P T A の皆様やお散歩パトロール隊、そして町内の防犯担当者との連携を強化しながら、見知らぬ人には積極的に声をかけることといたしました。犯罪のために下見に来たり、犯罪をしようとして町に入ってきたときに周りから声をかけられるということは、犯罪者としては「今、見られた」、「目撃された」という心理になるようですので、とにかく知らない人には声をかけるようにしました。実は小さい町ですので、ほとんど知っている人ばかりで、知らない人は町外から来た人というのが非常に分かりやすい地域なのです。

ところで、ちょっと極端な話になりますが、地域のゴミステーションはきれいになっていますか。ゴミステーションが散らかっていたり、交通安全や防犯の旗がちぎれたまま、あるいはポールが倒れ



たままになっていたりしていないでしょうか。こういうところは、自分に関心のないことには関わらない地域であり、つまり、犯罪者にとっては仕事のしやすい絶好の地域と言えるのではないのでしょうか。

パトロールの更なる強化対策

- ◆ 犯罪防止の基本は監視の目を増やす事
- ◆ 無監視時間帯を作らない事

PTA・お散歩パトロール隊・町内会防犯担当との連携を強化

↓

見知らぬ人には積極的に声をかけを実施し犯罪撲滅へ



私たちは、防犯意識の高い町であることをアピールするために防犯パトロールのマグネット板を作って、町内の商店、食堂、ガソリンスタンドなどの配達車両、そして町内の建設会社やその営業の車両などに片っ端から設置を依頼してまいりました。これが町内の防犯意識の向上と犯罪の抑止力を強める効果になってきたのではないかなと思っております。実は、町長の車にもマグネット板を設置していただいておりますが、私たちの仲間が設置する「Red Shadow」と同じ名前じゃ困るだろうということで「King Shadow」と名付けさせていただいております。そのほかに、元町長の車にもマグネット板を設置していただいておりますが、同じ名前じゃ駄目だなということで「Red Emperor」と名付けさせていただいたところ、非常に喜んで今もパトロールをやっていただいております。

また、防犯意識の向上のために、私たちのメンバーに少林寺拳法の師範がおりますので、そのメンバーに協力を得ながら、防犯講演や護身術講習会などもやってまいりました。



最初はたった一人の活動から始め、10年経った現在ではメンバーが58名になりました。青色回転灯装備車両は42台になりましたが、北海道ではまだ第5位でありますので北海道No.1を目指してがんばりたいと思っております。

皆様も御存知のように、現在、日本国内では数多くの自主防犯パトロール隊が結成され、安全を守る活動に取り組んでおりますが、構成員の高齢化、固定化が活動の活性化の問題になっているのでは

ないかと言われております。警察庁は将来の自主防犯体制を継続するために新しい環境づくりの支援事業を開始いたしました。

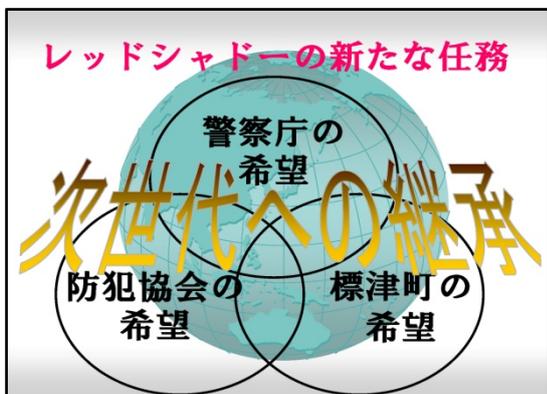
この事業の実施団体として、北海道では私ども仮面の忍者「赤影」、標津町防犯ボランティア組織レッドシャドーが選ばれました。平成23年に私たちは会社員、公務員など現役世代を中心にした平均年齢39歳の「自主防犯パトロール隊」として警察庁から指定され、私たちは反射ベストの胸に刻まれた「警察庁指定防犯ボランティア」の文字に恥じることなく、新しい任務に向かうのであります。



次世代への継承

さて、レッドシャドーの新たな任務とは何でしょうか。警察庁の希望、防犯協会の希望、そして私どもの町の希望の共通点はいったい何でしょうか。やはり次世代への継承。私たちの思いを次の世代、次の世代へと継承していくのが、私たち選ばれた人間に対して与えられた役割ではないでしょうか。

私どもレッドシャドーのポリシーは、「揺るぎなき正義感」、「標津町への忠誠心」、「誰にも負けない愛国心」、「世界平和への願い」でございます。大変、生意気なことを言って申し訳ございませんが、私たちの純粋な心でございます。国境に近い町に住んでいる田舎役場の職員もこういう環境にいると、こんなふうになってしまうのでしょうか。



- ### レッドシャドーのポリシー
- 揺るぎ無き正義感
 - 標津町への忠誠心
 - 誰にも負けない愛国心
 - 世界平和への願い

そのポリシーをどのようにして次世代に継承するのか。答えはやはり赤影にあるのではないのでしょうか。私たちのポリシーを育ててきたのは「幼き頃描きし夢」であり、ヒーローアニメから学んだ正義の心です。なぜ、子どもの頃は、このヒーローに憧れたのでしょうか。ヒーローアニメにはやはり心に響く言葉があるのではないのでしょうか。「もって生まれた不死身の体、キャシャーンがやらねば誰かやる」、「赤い仮面は謎の人、どんな顔だか知らないが正義の忍者だ、赤影だ」、「地球を救う使命を帯びて戦う男、燃えるロマン、誰かがこれをやらねばならぬ」といった心に響く言葉です。

次世代継承のターゲットはやはり子どもたちです。現代の子どもたちの心に響く言葉を募集して、私たちレッドシャドーとしてはポスターを製作したらどうかと考えております。これからは、子ども

たちの憧れのヒーローを目指して頑張り、レッドシャドーキッズを募集し、また、レッドシャドーのホームページを開設し、情報発信をしていかなければならないのかなと感じております。

さて、レッドシャドーキッズの募集活動はスタンバイ状態に入りました。現在、地元の小中学校と連携し、協議を開始いたしました。これから地域の子もたちとレッドシャドーが地域防犯マップを本格的に作り出すという状態です。

次世代継承のターゲットは子供達

- ◆現代の子供達の「心に響く言葉」を募集しレッドシャドーのポスターを制作
 - レッドシャドーが子供達の憧れの「ヒーロー」に
 - 子供達のなかからレッドシャドーキッズを募集
 - レッドシャドーHPの開設



私たちの任務はまだまだ終わりません。「圧倒的な存在感こそ抑止力」これが私たちのテーマでございます。新たな脅威として海岸に流れ着いてくる外国不審船対策。私たちの活動は…ついに…。海へ!!! そして空へ! 地元では就職先を間違えたのではとよく言われます。

先日は陸上自衛隊に国防に関する講演を頼まれました。何か変です。

ですが、ちゃんと平成 21 年度には北海道知事より「北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり賞」を受賞させていただき、平成 23 年度には、北海道警察本部長から防犯功労賞もいただいております。実は、私、これでも地域では地元の最大イベント「水キラリ」の儀式委員長や標津神社神輿会会長、標津消防団第 1 分団旗手、栄町町内会の副会長などを務める優しい田舎役場の職員でございます。



私たちはレッドシャドー、赤い影。私たちの主な活動時間帯は午後 10 時から午前 3 時。春は若葉マークの暴走行為をする若者に語りかけ、夏は祭り会場で酔っぱらいをなだめ、秋は文化祭準備で遅くなる学生、生徒たちの安全を確保し、冬は歳末警戒パトロールで飲酒運転撲滅を呼びかけております。深夜のパトロールを専門とする自主防犯パトロール隊でございます。

こんな組織ではございますが、これからも標津町民の安全・安心を守るために、そしてこの町の子もたちの未来のために、いや、我が国の未来のために全力を尽くしてまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

質疑応答

●質問 隊長、御苦労さまです。現役世代の頑張りに大変感心いたしました。私の知っている団体は、地域で一番活動が活発なのですが、平均年齢は68歳を超えています。ですから平均年齢39歳と大変驚いています。夜間の10時から3時までのパトロール、本来であれば警察が担う時間帯です。その時間帯に積極的に明日の仕事も顧みず、活動されているのは地域住民の皆さんも感謝されていると思います。そこで、平日の昼間帯に活動される隊員の方はいるのでしょうか。

○回答 御指摘のとおり、私たちは勤務中にパトロールはできません。しかし、私たちの58名の中には、元町議会議員さんであるとか、現役の漁協組合長であるとか、そして会社の役員を退いた8名が「レッドシャドー後援会」として参加しております。私たちがパトロールできない昼間帯、特に午後2時から3時頃までの小学校低学年の下校時間帯に、青色回転灯装備車両などで防犯パトロールをしていただいております。

●質問 大変カッコいいユニフォームですが、どなたがデザインしたのでしょうか。

○回答 まず、赤いベレーにつきましては皆さんも御存知かと思いますが、世界中で活動しているガーディアンエンジェルスを参考にしています。各地域に支部があるのではないかと思います。将来的には、やはり、そういった組織と連携を図れるような位置付けを意識しておりますので、赤を基調としたこのベレーを身に付けているのです。最初は、団体名のレッドシャドーの「赤」であり、本来は「影」ということで、あまり目立たないように活動するつもりだったのです。ところがどんどん目立ってしまって、影でなくなってきてしまったのが実情でございます。服装につきましては、私と副隊長の吉田やメンバーみんなとデザインを考えました。使っているものは、近くのホームセンターなどで、比較的安価で販売しているジャンパーなどを大量に買って、背中にマジックテープで名前を付けるような形で、私たちみんなで作っています。